

西村委員

先ほども看護師等の医療人材の養成・確保という御質問がございましたが、確認の意味を込めてもう一度伺いたいと思います。

先ほどの御答弁の中で、准看護師養成の停止といった答弁があったと思うんですが、神奈川県の人当たりでの就業看護職員数が全国でワーストワンという実態の中で、准看護師養成を停止するという方向性は、看護師がそれだけ増えるという青写真が描けた上のことでしょうか。

保健福祉人材課長

現在、神奈川県では人口 10 万人当たりの看護職員は約 736 人ということで、全国と比較いたしますとワーストワンということでございます。

神奈川県における看護教育のあり方検討会におきます検討は、先ほど御答弁申し上げましたとおり、今の准看護師に対する教育内容が今の業務に見合っていないということから、今後停止していく方向で進める方がよろしいという御意見を頂いているところでございまして、単に停止するのではなくて、より質を高めるための方策は検討会においても引き続き行ってまいります。

西村委員

改めて検討していただく中で、社会的なニーズがあるというやりとりがあったと思うんですけれども、実際に現場のニーズサーベイを行っているのか、あるいは准看護師の意識調査であったり、雇っていらっしゃる側の医師の方々の調査は県で実施していらっしゃいますか。

保健福祉人材課長

この神奈川県における看護教育のあり方検討会の委員の方々でございましてけれども、准看護師を雇用されている県の病院協会ですとか、社会福祉協議会の方にも委員として参画いただいております。それから、看護職員の団体でございまして県看護協会、看護師等養成施設連絡協議会ですとか、准看護師の養成施設を運営しております郡市の医師会と関係の深い県医師会といった方々にも委員として参画をしていただいております。それぞれの立場を踏まえて、御発言、御検討をいただいているところでございます。

それから、現場の実態というお話でございましてけれども、4月に開催しました第3回の検討会におきましては、准看護師の養成を行っており、今後は看護師養成の方へ転換を予定されています養成所の先生に検討会にお越しいただきまして、実際の現場での御苦労や教育の実態、限界などについてお話をいただいたところでございます。

さらに、先ほど御答弁申し上げましたけれども、実態を一層詳しく把握すべきであるという委員からの御意見も頂きましたので、現在、県内の准看護師課程に入学しました1年生と2年生の396名と、准看護課程で実際に教えていら

っしやる教員の方々29名を対象としましたアンケート調査を現在、実施しているところでございます。

具体的には、学生向けには入学の理由、就業の状況、卒業後の進路等を調査していただいております。また、教員向けの調査では、教育体制の確保の困難、背景が多様である生徒さんへの指導上の課題について調査を行っているところでございます。さらには、隔年で実施しております業務従事者届といった各種の統計もございまして、こういった情報を基に准看護師を取り巻く状況の実態把握を行っているところでございます。

#### 西村委員

現在、県内の准看護師を養成する学校は6校だというふうに伺いました。そのうち、横浜市医師会では全て看護師養成に切り替わるということです。今後、准看護師から看護師に流れを変えていくのであれば、准看護師の方が看護師を目指すクラスが減っていくというのは矛盾する気がするのですが、いかがでしょうか。

#### 保健福祉人材課長

准看護師養成の課程は現在6課程ございます。これにつきましては、ただいま神奈川県における看護教育のあり方検討会で御議論いただいているところでございます。それから、准看護師の資格を取った後に看護師の資格取得を目指す方へのコースが現在、県内に6コースあり、進学コースと呼ばれておりますけれども、こちらのコースの応募倍率が年々低下している実態がございまして、

具体的に申し上げますと、平成19年は全体平均で2.2倍の応募率でございましたけれども、年々低下を続けておまして、平成23年度の入試に当たっては1.6倍まで落ちてきております。今後、こういった准看護師の方々が看護師資格を取得される際のニーズの把握を行い、対応を考えていくことが必要であると考えております。

#### 西村委員

要望ですが、なぜ進学をしないのかという実態調査が必要だと思うということと、働きながら進学される上での支援体制の在り方をもう一度考えていただきたいと要望させていただきます。

次に、不活化ポリオワクチンについて質問が出ておりますけれども、9月1日に不活化ポリオワクチンに切り替わり、ただになるということで、今、接種を控えていらっしゃる方がこれから増えてくるであろうと。駆け込みで接種される方が合わさると、供給予定量は477万回分というふうに言われておりますが、これで間に合うのでしょうか。

#### 健康危機管理課長

これは国の見解でございましてけれども、先ほど来申し上げております4月23日に開催されました不活化ポリオワクチンの円滑な導入に関する検討委員会で見られました資料によりますと、十分な供給量を確保するという姿勢を表明さ

れておりますので、私どももそのように受け止めております。

西村委員

この春に実施されている接種対象者の9割以上の方が接種をなさらなかったら足りなくなってしまうという計算になっていると伺っておりますけれども、次の段階で本年1月に4種混合の承認申請が済んでいますから、国産のものが順調にいけば11月には承認が下りるわけで、3種混合プラス不活化の4種混合が11月から始まってしまうことになる、より一層の混乱が起きると思うんですが、この辺りのことも国の方から通達などは来ているのでしょうか。

健康危機管理課長

現時点では詳細な情報は来てございません。先ほど申しあげました6月1日の説明会では、まずはこの単独不活化ポリオワクチンについての説明が国からなされると承知しておりまして、4種混合ワクチンにつきましても、11月を目どに国が準備を進めていると承知しているところでございます。同様に市町村の方でも事前に準備ができるよう、それなりの期間を設けまして、しかるべき時期に国から通達があると考えております。

西村委員

いろいろな情報をお母様方は獲得されていらっしゃると思いますので、そのことによる接種控えが大きな問題になってくるであろうと思われまして、切り替わったときには、どっと接種に来られるというような混乱も考えられると思います。6月から説明会が始まるということですが、この辺りを県としてもしっかりと市町村と連携をとって進めていただきますように要望させていただきます。

最後に、昨年10月の定例会の本委員会からずっと訴えてまいりました神奈川版ACIPの検討から設置ということで、大変にありがとうございます。このことについて質問させていただきますけれども、感染症対策については、協議する既存の感染症対策協議会があるわけですが、こういった組織体制を想定されていらっしゃるのでしょうか。現存する協議会との兼ね合いなどをお教えいただけますか。

健康危機管理課長

委員からお話がありましたとおり、既に感染症対策協議会がございます。当然、ワクチンの接種についても守備範囲となっておりますので、こちらとの整合性をとっていく必要がございます。感染症対策協議会の部会のような形で位置付けができればというふうに、現時点では検討しているところでございます。

西村委員

発言権というか、影響力がないのかなと危惧してしまうんですけれども、これまでの既存の感染症対策協議会とは別に、部会として進めていく神奈川版ACIPには新たにどのような機能を盛り込んでいこうとお考えですか。

健康危機管理課長

私どもが重点を置いてございますのは、現場の声を吸い上げるということでございまして、地域に根差した検討組織であるということが大前提だと思っております。

そうした中で、具体には県内の予防接種の実施状況といった情報収集ですとか、問題点の抽出、あるいは県のみならず、国あるいは市町村の取組についての評価、また、必要があれば、要望、提案、さらにはワクチン接種率の向上といったことなどについても議論していただくというような機能を持つ会議にしていければと考えております。

西村委員

どのような方を構成員にお願いするのか、もし方向性などが決まっていたら、あるいは重要であると考えていることがございましたら、お教え願えますか。

健康危機管理課長

まだ現時点では検討の段階ですので、具体の人選まで進んでおりませんが、例えば、大学の教授、あるいは国立感染症研究所などの医療の専門家といった方に加えて、現場の声を重視しておりますので、実際に予防接種に当たっていらっしゃる小児科医の先生や予防接種を受ける側の県民の声を代表する方など、実際にどういう方かというのは検討を重ねなければいけないんですけども、こういった方に委員として御参画をいただければと考えてございます。

西村委員

要望を申し上げます。組織体制、機能、構成員については、今後の神奈川県ACIPの在り方を決める重要な検討事項でございますので、十分に検討を重ねていただきたいと思います。さきの第1回定例会、3月6日にも幾つか具体的に要望させていただきました。

今後、ライフイノベーション国際戦略総合特区というものも神奈川県は抱えておりますので、ワクチン開発にも道を開けるような内容に御意見を持っていらっしゃる方が入っていただければいいと希望しておりますし、先ほどの不活化ポリオワクチンにもありましたが、子供さんが打たれる任意接種のワクチンが大変増えておりまして、この接種間隔が今問題になっております。こういうワクチンのスケジュール問題にも取り組んでいただきたいと思います。そして、それらの意見を取りまとめた上で、国に一石を投じられるような神奈川県ACIPの設置に努めていただきますよう要望いたしまして、質問を終わります。